

研究プロジェクト4 「立教中学校関係資料研究」

舟橋 正真

本年度は、計五回の研究会を開催し、戦時期および戦後改革期の「立教中学校教務日誌」（以下、「教務日誌」）の検討を行った。

第一は、前年度より開始した戦時下「教務日誌」の史料紹介の内容に関する検討である。前年度は、『立教学院史研究』第一五号で、一九四一年度「教務日誌」の史料紹介を掲載したが、本年度は続く一九四二年度から四三年度までと範囲を定めた。掲載にあたっては、計三回の検討会を開き、解題の内容や個人情報扱いの方、注記の内容、および付録（教員一覧、写真）の検討などを精力的に進めた。

解題と注記については、本プロジェクト研究員による分担執筆とし、全体の編集は事務局（筆者）が担当した。以上の成果は、本号に掲載された。次号（一七号）では一九四四年度分、次々号（一八号）では一九四五年度分の掲載を予定している。

第二は、輪番制による「教務日誌」の読み合わせであ

る。二〇一五年度からのプロジェクトであり、本年度は、一九五〇年度「教務日誌」の読み合わせを実施した。第三二回研究会では、油井原均研究員による同日誌の内容報告が行われた。その後の議論のなかでは、主に同時期の新制立教中学校の教職員（外国人含む）の状況、旧制立教中学校との連続面、立教各校との関係、公立と私立の管轄機関の相違など様々な論点が出された（同回は前年度に開催予定であったが、天候不良により中止となり、本年度の開催となった）。

なお、一九五一年度「教務日誌」については、次年度の研究会において、田中智子研究員による報告を予定している。

本年度開催の研究会は、以下の通りである。

第三二回（二〇一八年五月二八日）

第三三回（七月六日）

第三四回（八月一〇日）

第三五回（十一月二日）

第三六回（二〇一九年一月二五日）

そのほか、筆者は、立教池袋中学校・高等学校史料室所蔵の旧制資料の再検討を進めている。主に、以前に作成した簿冊の細目データについて原史料を確認の上、修正を加えている。それ以外には、次のような他機関所蔵の戦時期から戦後学制改革期までの史料の所蔵確認、お

よび史料収集を適宜進めている。関西学院 学院史編纂室、恵泉女学園史料室、神戸女学院史料室、立教女学院資料室、日本大学企画広報部広報課、明治学院歴史資料館。

次年度以降も、本プロジェクト研究を精力的に進めていきたい。

研究プロジェクト5 「宣教師関係資料研究」

大江 満

宣教師関係資料は、戦前まで立教学院の経営母体であった米国聖公会の伝道機関誌『スピリット・オブ・ミッションズ』(Spirit of Missions/ 1836～1939)とその後継誌『フォース』(Forth/ 1940～1959)が基幹資料となる。立教学院史資料センターでは二〇〇八年度から二〇一四年度にかけて、最初の米国聖公会遣日宣教師が来日した一八五九(安政六)年から後継誌終刊年にあたる一九五九(昭和三四)年までの一世紀を対象とした『立教関係記事集成』を、立教学院一五〇年史資料集として、五巻と別巻(最終巻)にわたり抄訳付で刊行した。また当センターは、日本聖公会管区事務所所蔵の米国聖公会遣日宣教師書簡群(通称ジャパン・レコーズ/ Japan Records)のマイクロフィルムの複写版を、日本聖公会管区事務所と共有できることになり、この膨大な書簡群の目録作業も二〇一五年度に完了した。現在は、立教学院幹部関係、池袋キャンパス移転関係、大学令による大学設立関係などから重要資料を選定して、翻訳作